



日頃から

水害に対する備えを

西日本の広い範囲で記録的な大雨となった平成30年7月豪雨では、甚大な被害が生じ、平成で最悪の水害となりました。また、昨年7月には梅雨前線による大雨で九州地方を中心に大きな被害が出ました。

毎年のように発生する水害から身を守るには、雨量や河川の水位、避難情報など危険を知らせる情報の活用が重要です。台風シーズンの前に、水害に対する早めの備えをしておきましょう。

▼問い合わせ 危機管理課 ☎73・3119

地域の災害危険箇所や避難所を知りましょう

自分が住んでいる地域の土砂災害や河川氾濫の危険箇所を、防災マップやハザードマップで確認しましょう。

また、安全な避難を行うためには、避難所、避難経路を事前に確認しておくことが重要です。

気象情報や河川情報にも注意

水害時に避難行動をとるためには、河川の水位や雨量の情報、注意報、警戒、土砂災害警戒情報、警戒レベルを把握することが重要です。気象庁や県などのウェブサイトで確認できるので、活用しましょう。



ココからチェック!

- 香川県 かがわ防災 Webポータル
- 国土交通省 国土交通省 川の防災情報
- 気象庁 気象庁 Japan Meteorological Agency

警戒レベル	
5	緊急安全確保
—警戒レベル4までに必ず避難!—	
4	避難指示
3	高齢者等避難
2	大雨・洪水・高潮注意報
1	早期注意情報

警戒レベル4「避難指示」までに避難を!

5月20日に災害対策基本法の一部を改正する法律が施行され、警戒レベル4の「避難勧告」と「避難指示(緊急)」が「避難指示」に統一されました。避難指示は、これまでの「避難勧告」のタイミングで発令されることとなります。

「避難」とは「難」を「避」けること。分散避難も検討

- 市が指定した避難所への避難
- 学校、公民館など
 - 【持ち物】
 - ・マスク
 - ・消毒液
 - ・体温計
 - ・スリッパなど

- 安全な親戚・知人宅への避難
- 普段から相談し、防災マップやハザードマップで安全かどうか確認しておきましょう。

- 屋内安全確保
- 自宅の上階が想定浸水深より高いこと、飲料水や食料などの備えが十分にあることなどを確認しておきましょう。

- 安全なホテル・旅館への避難
- 防災マップやハザードマップで安全かどうかを確認しておきましょう。

警戒レベル5 命の危険 直ちに安全確保

- ・既に災害が発生または切迫しているため、命を守るための最善の行動をとりましょう。
- ・立退き避難ができない場合は、自宅、建物などの浸水しにくい高い場所に移動しましょう。
- ・必ず発令される情報ではないため、警戒レベル4までに必ず避難しましょう。

警戒レベル4 危険な場所から全員避難

- ・速やかに危険な場所から避難しましょう。
- ・避難所への移動が危険と思われる場合は、近隣の安全な場所や建物内のより安全な場所(2階など)に避難しましょう。
- ・安全な場所にある親戚・知人宅への避難も検討しましょう。

警戒レベル3 危険な場所から高齢者などは避難

- ・避難に時間のかかる人(高齢者や障がいのある人、乳幼児のいるご家庭など)は、避難しましょう。
- ・その他の人は、避難の準備や状況に応じて自主避難しましょう。

避難所は、一度に大勢の避難者が集まることになり、3密(密閉・密集・密接)になりやすく、集団感染が起りやすい環境になってしまいます。

これを避けるために、避難所だけでなく、親戚や知人宅などへ避難する「分散避難」も考えてみましょう。

「やっ」というときのために

1 やってみたいこと

1 洪水ハザードマップで防災行動を計画しよう!

高瀬川および財田川の洪水ハザードマップは、3月下旬に浸水想定区域となる自治会のエリアにお住まいの世帯に郵送しています。

郵送エリア外で必要な人には、危機管理課または各支所で配布しています。

この洪水ハザードマップを活用して「マイ・タイムライン」を作成することができます。

「マイ・タイムラインとは」

一人ひとりの防災行動計画(タイムライン)のことです。台風の接近による大雨などによって河川の水位が上昇するときに、自分自身が行う行動を時系列に整理し、命を守る避難行動の一助となります。

洪水ハザードマップを使って、洪水時のさまざまなリスクを知り、どのような避難行動が必要か、どのタイミングで避難することが良いのかを自ら考えたり家族と話し合ったりしながら、マイ・タイムラインを作成しましょう。



自分が住んでいる地域の危険箇所を確認しましょう



▲市ホームページから動画を確認できます



2 非常用持ち出し品を準備しよう!

災害が発生すると、電気、ガス、水道などのライフラインが停止する可能性があります。

日頃から飲料水や食料、生活用品を最低3日分、できれば1週間分備蓄しましょう。緊急に避難しなければならぬ場合に備えて、非常時に必要なものをリュックなどに入れて、すぐ持ち出せる場所に用意しておきましょう。



他にもあるといいもの
タオル、軍手、ポリ袋、運動靴、ろうそく・ライターなど